

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浦和ガーデンビル新築工事	階数	地下1F地上10F
建設地	さいたま市浦和区高砂二丁目72番1外	構造	S造 一部SRC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・飲食店	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年12月20日
敷地面積	1,854 m ²	作成者	
建築面積	1,159 m ²	確認日	2023年12月20日
延床面積	10,967 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 4
LR2 資源・マテリアル: 4
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 さいたま市に計画された店舗・事務所ビルである。 高効率な設備機器の導入や、積極的な緑化により環境負荷の低減に配慮した建物である。		その他
Q1 室内環境 ・遮音性能の良いサッシを採用している。	Q2 サービス性能 ・耐用年数が高い内装材や配管材を採用し、建物の耐久性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・新たに植栽を行うことで豊富な緑を確保している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器等を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・リサイクル材等の積極的な採用により、非再生資源の使用量の削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・駐輪場・駐車場の計画は利便性、交通渋滞緩和に配慮している。 ・屋外照明の計画は、周囲への漏れ光に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)浦和ガーデンビル新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.3
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.0
1 音環境						3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		開口部の遮音等級はT-2以上。				5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.4	0.35	-	-	2.4
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.24	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用						3.0	0.35	-	-	
1 昼光率						3.0	0.56	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.44	-	-	
3.2 グレア対策						1.0	0.28	-	-	
1 昼光制御						1.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.14	-	-	
3.4 照明制御		細かく点滅区分を分けている。				5.0	0.23	-	-	
4 空気質環境						3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		全面的にF☆☆☆☆の材料を採用している。				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量		換気量: 建築基準法の1.4倍以上。				5.0	0.35	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.31	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.35	-	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		非喫煙者が煙に曝されないような対策が十分にとられている。				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.3
1 機能性						3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.31	-	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.31	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.38	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高: 2.8m。				4.0	0.35	-	-	
2 リフレッシュスペース		執務スペース面積の1%以上のリフレッシュスペースを確保して建物コンセプトに基づく内装デザインがされている。				4.0	0.31	-	-	
3 内装計画						5.0	0.35	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計を行っている。				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用している。				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウム鋼板を採用している。				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種について、2種類以上に判断基準B以上を採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.0m。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上。	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	将来スペースが計画的に確保されている。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.4	0.20	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.69	4.1	0.50	-	4.1
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	用途別エネルギー量の把握が可能である。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画されている。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している。							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			4.0	0.10	-	-	
機械式継手、合成スラブデッキ等の採用。							
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
電気炉材鉄骨							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
ビニル床シート、ボード、屋外用品(エクステリア)							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
ユニット部材として、OAフロアを採用している。							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	
1種類の材料について有害物質を含まないことを確認している。							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の断熱材を使用している。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			4.0	0.33	-	-	4.0
CO2排出率:75%							
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪駐車台数確保、車両出入時の混雑を避けた計画としている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	効率の高い照明器具を採用している。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	